

2019(平成31)年度 事業報告書

旭福祉センター・第二旭福祉センター

■ 平成31年度の最重点目標に対する事業経過報告

1. 職員必携の活用・・・(評価B)

朝礼を活用して職員必携の読み込みを行こない、職員への周知と理解度を深めることができた。しかし、職員必携に関する感想文は実施できず、職員の理解度を把握することができなかった。来年度は確実な実施と理解度の把握、また表面的な理解に留まらず実践につなげられるよう、さらに職員への浸透を図っていく。

2. 地域密着型施設としての活動を推進(評価A)

今年度は岡之原町内会3班の受け入れを実施。また、棒踊り保存会、地域行事や清掃作業へ利用者と職員が積極的に参加し、交流を深めた。その他に今年度はペタンク競技を推進されている地域の方を講師に招き、利用者5名、職員3名でスポーツ交流を図った。12月には餅つき大会を開催、2家族、5名の地域の方々に参加いただいた。また、今年で3回目となる川上小の福祉体験学習は4年生94名との交流を実施した。

3. 人材育成(職員育成制度の円滑な実施)(評価B)

今回の目標の一つであった育成シートやチューター制度等の育成システム、新人育成のカリキュラムを確実に実施することができた。しかし、取り組みの実施ばかりに意識が向き、成果を実感できるような取り組み方にはなっていなかった。現在、取り組んでいる育成システムをより効果的な育成に繋げるために、それぞれの目的や効果を今一度確認し、対象者および非対象者にも理解してもらう取り組みが必要である。

4. 職場環境の充実(評価B)

ノー残業デイについては改善されつつあるが、徹底ができていなかった。「4日以上連続休暇取得」は100%取得することができた。また「有給休暇一人当たり10日以上取得」の目標も平均10.3日と達成した。但し、個別では若干名が達成できていない状況であった。次年度は全職員が達成できることを目標に、取り組んでいく。

5. 効率化(評価C)

効率化に関する取り組みは計画の通りにできなかった。作業マニュアルについては育成シートをベースに流れを継続することとまる。コスト面に関しては、作業収支管理表が完成した。今後は作業委員会が管理し、製販会議と職員会議で併用して使用、コスト意識をより向上させていく。

6. 利用者・家族へのニーズに合わせた質の高い支援の提供（評価 B）

役割分担・利用者の生活面の確立・施設内整備等の改善について、委員会・個人それぞれの役割を確認しながら進めることができた。今後も引き続き取り組んでいく。また、個別支援計画の質を上げるため計画作成に関わる職場内研修を実施し、スキル向上に努めた。ただ、質の高い支援計画の実施・運用には課題も多い。引き続き研鑽を重ねていきたい。

7. リスクマネジメントへの体制づくり強化（評価 B）

日頃の防災訓練に加え、今年度は災害発生状況をより厳密に想定しての非常災害訓練を行った。集合・点呼・避難等の反省点を踏まえ、今後の訓練に活かして行く。また、今年度は備蓄品の使用は無し。非常災害訓練後に備品の点検を実施した。

8. 就労支援に関する情報収集・強化（評価 B）

就労移行事業については、1名の就労希望者が就労となった。今後も実習先等の開拓を含め、他の事業等の連携を密に、次の就労支援に繋げて行く。尚、就労継続支援 B 型工賃平均についてはセンター・第二センターともに 27,000 円以上を達成できた。

9. 各種作業部門 製販計画の達成（評価 B）

今年度は「育成シートや現場 OJT を用いた職員の能力向上」を目標としていたが、各作業班でのバラつきや、管理面で当委員会が不十分な点もあり、今期の重点目標であった全作業班での完全実施には至らなかった。製販計画の達成については、作業班売上計画に対し、未達の部署もあったが、全体を通して計画を達成する事ができた。

◎平成 31 年度 各委員会の報告

- [地域①②委員会] 早期計画の立案と職員、利用者への周知徹底を目標に取り組んだ。緑ヶ丘朝市・農福マルシェ等の各種バザー(計15回)へ参加を行うが、予定していた行事が台風・新型コロナウイルス等の影響で、8行事中止となった。
- [事務委員会]円滑な経営を行うため試算表を基に検討を行ったが、予算管理等が不十分で、来年度見直し・改善の必要がある。今年度は「就労支援事業製造原価明細書」を毎月作成し、作業委員会と共同で各作業班の活動資金・収益の把握に努めた。また、事務所内でのサービス加算についての勉強会を実施、事務業務の資質向上と情報共有意識の向上に努めた。
- [職場改善①委員会]新人職員に対する育成フローは完成したが、フローを最後まで完遂できなかった。よって、次年度は業務を完遂するまでを目標とする。また、職員の働きやすい職場づくりの一環として2,3年目の職員を対象とした資質向上の研修「テーマ:報連相確」を行うなど、職場の資質向上と環境改善に努めた。

- [人権擁護委員会] 今年度も「施設内人権侵害防止チェックリスト」への記入を行い、その結果を基に施設内研修及びディスカッションを各1回ずつ開催。自身の行動を振り返り、虐待防止の意識向上を図る機会を設けた。また、利用者へのヒアリング調査も実施し、思いや考えを共有することで、より良い支援に繋げることができた。
- [炊事委員会] 今年度も嗜好調査を計画通り実施し、利用者の希望に合わせる為の改善を行った。また、2名の利用者の特別食が増え、体調管理で食事制限が必要な利用者も十数名いるため、全員で情報の共有・周知の徹底に努めた。今後も献立の組み方に注意し、炊事全体での話し合いを深めていく。
- [センターふれあいバザー実行委員会] ふれあいバザーは春(4月14日、55回目の開催)が会場を ゆうかり学園から旭福祉センターに変更して開催。変更による大きな混乱も特になく、約900名のお客様に来園していただいた。秋開催(11月23日、56回目の開催)も天候に恵まれ、約1,000名のお客様が来園された。いずれも実行委員会を早期に立ち上げて準備を徹底したこともあり、運営も円滑であった。
- [グループホーム旅行委員会] 入所旅行・餅つき大会を実施した。旅行検討時において、業者との連携に不備があったので来期は改善する。餅つき大会についても職員への周知、連絡が遅れた。来期はこれらの反省を踏まえたフローを基に、早期計画を進める。
- [行事 A] キャンプや新年会などを実施、今後は準備確認を円滑に進めるため、今年度作成した新年会準備のフロー資料を活用していく。来年度は新年会に限らず、キャンプ等、他の行事についても準備フロー資料の作成を行う。
- [行事 B] 一日旅行を中心に、各イベントに合わせた利用者外出を計画(新型ウィルスの影響で一部参加を中止)・実施した。全体的に立案・計画・実施の行動が遅かった。来年度は早期に余裕を持ったスケジュール調整を行っていく。
- [行事 C] 利用者と職員の親睦を目的としたバーベキュー、各グループホームのビアガーデン、利用者合同忘年会を計画、実施した。三行事とも計画通り問題なく実施できることができた。今後も、メンバーの連携を密に行い、三行事の質の向上を目指していく。
- [広報委員会] センターでのイベントや楓・NODOKA の情報発信は、SNS・ホームページを活用し、スケジュールの予実管理を行うことで計画通りに実施できた。また、ホームページの更新に関する仕様書を作成し、誰でも更新できる体制を整えた。打合時にホワイトボードを有効活用し、メンバー全員の情報共有を図った。来年度は、引き続き予実管理を徹底していく。

(平成 31 年度 各作業班別の重点目標に対する事業報告)

作業班	重点目標	事業報告
NODOKA	集客率アップ ・接客サービス向上 ・新メニュー開発	売上を達成する。常連客が増加傾向にある。おすすめメニューの魅力・接客スキルの向上が、いずれも売上に繋がったと思う。今後は宣伝に関し SNS 等にも力を入れていく。
楓 (菓子班)	人材育成(育成シート活用・利用者スキルアップ) ・協力体制の確立	売上計画を達成。各種イベント等について計画的に行うことができた。課題であった全体・利用者スキルアップを進めていくことはできたが、まだ完全ではないので引き続き取り組んでいく。SNS 等の宣伝が弱かったので工夫をし、今後も宣伝を強化していく。
竹工	人材育成シート活用による職員育成・利用者個々のニーズ把握を推進した支援の充実	売上は計画に対し未達。今期は新人職員 2 名に対し育成シートを活用することができた。支援については定期的なケース会議やご家族とのやり取り等からニーズ把握を行い改善した部分もあるが、今後もより充実したものになるよう推進していく。
蔬菜	協力体制の確立 ・人材育成 ・地域との交流	売上は計画に対し未達であった。職員、利用者のスキルアップのため作業別の説明カードを作成し、意識の向上に効果を発揮している。地域住民との関わりでは利用者も含めた交流の場面もみられた。今後も関わりを深めるために挨拶を続けていく。
陶芸	手作り作品の充実 「3K」(軽い・可愛い・重ねやすい)の徹底	売上計画は達成。 制作した製品の 7割～8割程は手作りを作製することができた。「3K」への取り組みは十分とは言えないが、意識をするようになってきている。
施設外 就労	各顧客との連携強化 ・利用者支援の強化 ・施設外就労の制度理解	売上計画を達成する。 先方に対し、各職員が積極的にコミュニケーションを図り、良好な関係を築くことができた。また、利用者支援に関しては、月 1 ミーティングを実施し、作業日誌・実施報告書の確認、利用者情報の共有及び、支援の強化に努める事ができた。
メンテナ ス	育成シート・研修を活用した人材育成	売上計画は達成。今期の重点目標に掲げていた育成シート・研修は面談や現場での OJT を通して行うが、清掃場所に応じた手順や道具の使い方などまだまだ不十分な面も見られるので、育成計画と研修内容の見直しを行う。また、来年も継続して OJT と研修を実施していく。

味噌	育成シートの活用・ 関係部署との連携	売上目標は達成出来なかったが、前年度の売上を超えることはできた。また味噌作りを行う上での関連部署への連絡が遅かった点や、お中元・お歳暮の資料作成が不十分な点があった為、今後は早期計画を徹底する。
生活介護	各活動の充実	リサイクル活動や音楽療法の充実に加え、新しい取り組みとして利用者の健康増進(口腔体操や手足浴等の健康管理)を行う事で、一人一人のニーズに応じた支援に努めた。

平成 31 年度 主要部門売上一覧

作業班	売上目標	達成額	達成率
蔬 菜	4,200,000	4,060,000	96.7%
楓 (菓子班)	17,300,000	17,440,000	100.8%
NODOKA	7,500,000	7,870,000	104.9%
メンテナンス	22,300,000	22,510,000	100.9%
竹 工	3,300,000	3,170,000	96.2%
陶 芸	1,170,000	1,590,000	136.2%
施設外就労	4,700,000	5,070,000	107.9%
味 噌	1,400,000	1,370,000	98.1%
その他	800,000	1,000,000	125.0%
合 計	62,670,000	64,080,000	102.2%

各サービス別の月額平均工賃

		H30 年度	H31 年度
旭福祉センター	生活介護	9,447	7,507
	就労継続B	26,744	27,282
第二旭福祉センター	生活介護		
	就労移行	19,117	10,371
	就労継続B	26,164	27,088
全 体 平 均		20,263	19,425
一般就労者平均(6名)		90,500	91,243

※令和2年 4月末データ

(その他)

1. 家族との連携強化(家族代表者委員会との連携)

家族代表者委員会では平成 31 年度 3 回に渡って委員会を開催した。議題としては、31 年度の施設主催バザー(春、秋の2回)についての反省、家族会役員のメンバー交代についての検討、31 年度以降の家族ボランティアメンバー選定、

障害者施策の情報提供などである。その他、施設の行事報告等を行い情報の共有に努めた。また、毎年8月の家族総会、1月の利用者・家族・職員合同 新年会を行い、親睦を図った。

2. 職員研修の充実

施設内において年間26回(新人・中堅・人権擁護・メンテナンス・チューター研修など)の研修を実施、職員の障害に関する知識と支援技術の向上や、一般常識的 知識の向上、道徳・倫理的な要素を取り入れた研修等を行った。また、外部研修についても協会主催の研修など、計67回の様々な研修・講演会に参加、資質の向上に努めた。

3. グループホームの充実

グループホームの充実を目的として、今年度も世話人との情報交換会(年2回)を実施した。また、7つのグループホームに所属する利用者(29名)と各担当職員を交え、グループホームの決まり事や要望等を話し合う意見交換会(年2回)を実施した。尚、8つ目のグループホーム 楓(坂元町)については、令和2年3月に竣工し、同年5月7日より運営を開始した。

4. 福祉教育

31年度は、下記の実習生・研修生等を受け入れ、福祉教育の充実に寄与した。

- ① 保育士実習 4名 (1校)
- ② 特別支援学校現場実習 11名 (5校)
- ③ 福祉学習受け入れ 94名 (1校) ※川上小学校4年生